

新しい「野洲市民病院」 ニュース

Vol.2

令和8(2026)年11月の竣工に向けて
工事の進捗状況などをお知らせします！



令和6年9月30日

<お問合せ先>

野洲病院新病院整備課

小篠原 1094 番地

077-587-6141



新病院の実施設計と準備工事が進行中です！！

◇◆ 新しい擁壁^{ようへき}の設置と基礎杭打ち工事を開始しました！ ◇◆



↑ 設置中の新擁壁（左が中ノ池川）

新病院の敷地を固める新しい擁壁の設置工事を、9月3日から始めました！

8月第1週、総合体育館の屋外階段付替えのための基礎杭の打設工事を行いました！

基礎杭打設工事→



○当面の工事日程

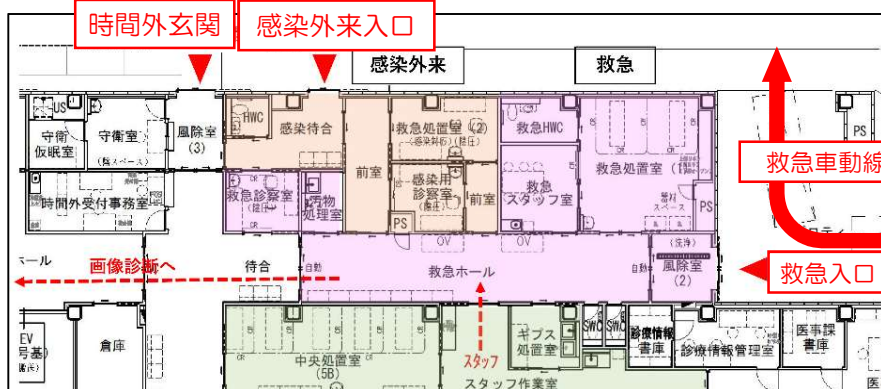
R6.9月	擁壁設置工事 屋外階段新設工事（基礎）
10月	屋外階段新設工事 公共下水道移設工事
11月	屋外階段撤去工事 公共下水道移設工事（マンホールポンプ設置）
R7.3月	本体工事を起工・着手

◇◆新病院の設計内容を紹介します！（その2）◇◆

新病院の内部を、基本設計に基づいてご紹介します！今回は、1階の救急や感染外来エリアです！

救急エリアは病院の正面に計画しており、受付から初療の迅速な対応が可能な計画となっています。
救急車は左図のとおり、風雨や他人目をしのげるよう、ピロティに入庫する計画としています。

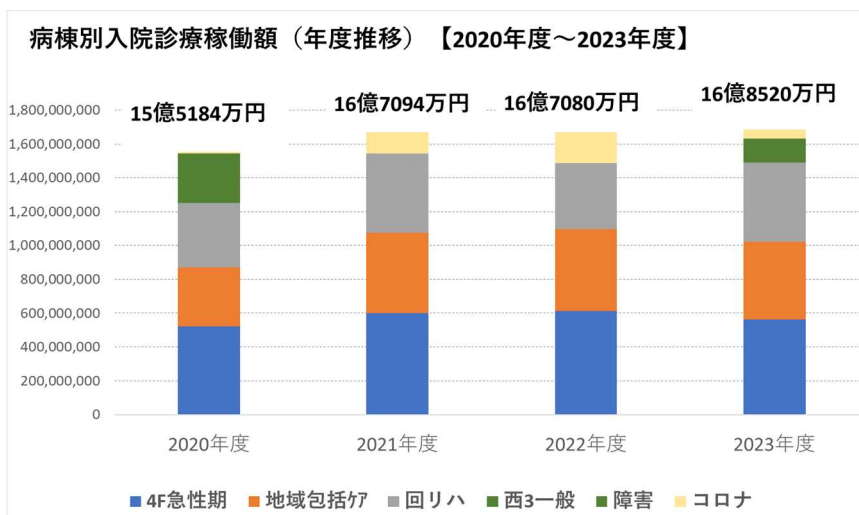
感染外来には専用入口を設けるほか、前室を備えた診察室となります。



〔裏面に続きます〕

◆◆ 令和 5(2023)年度の病院事業の決算状況 ◆◆

本業となる医業収支については、新しい電子カルテシステムの減価償却費や医療技術者・看護師等の増員による人件費などの支出が増加したことを主な理由に、前の令和 4(2022)年度との比較で約 1 億 5,000 万円、マイナス幅が増えました。しかし増加した支出の内容は、主に新病院を見据えた投資的なものであり、また医業収益に関しても、入院の診療稼働額(右グラフ)と患者数が市立化以来最高となるなど、医療のアクティビティ(活動性)は、新病院をめざして向上しています。「現病院の経営状況が著しく悪化している!」などといった風評は事実ではありません。



◆◆ 現・病院施設の修繕対応の状況 ◆◆

新病院が開院するまでの約 2 年半の間の現病院の機能を維持するため、令和 5(2023)年度は、高圧電気設備や空調設備の改修のほか、大地震時に建物の崩壊を防ぐための耐震補強工事を実施しました。しかし、配管からの水漏れなどの不具合は頻繁に発生しており、部分修繕を行いながら必要な療養環境の保持に努めています。より安全で快適な新病院の完成が待たれるところです。

◆◆ 野洲駅南口では『にぎわい創出事業』が進行中 ◆◆

新病院が総合体育館東側の市有地に決定したことを受け、それまでの計画地であった駅南口周辺では、『人と人がつながり、にぎわう居心地のいい駅前』をめざした取組が進められています。

7 月には、整備計画を具体的に担う連携事業者と基本協定が締結されました。同事業者からの提案は、駅直近のポテンシャルを活かしたビジネスホテル、商業施設、分譲マンションのほか、正面には緑豊かな市民広場、カフェ、市民交流スペースを設ける内容となっています。現在、提案内容を基にした一段の協議が進められており、駅前隣接の A・C ブロックは、新病院開院の翌年(令和 9 年)度に竣工する計画となっています。



----- 歴史の井戸辺 医事にまつわる野洲の歴史散策 第2回 -----

16 世紀前半、永原は永原氏の拠点であった。ただし永原氏はこの地に常駐していたわけではない。1559 年の冬、延暦寺の紹介で永原を訪れたイエズス会宣教師ガスパル・ヴィレウには、留守を預かる「北村殿」が応対していた。北村氏は 1568 年の織田信長の近江侵攻後も永原に住み続けている。永原御殿にて徳川家康が「和中散(わちゅうさん)」と命名したとされる 1611 年当時、永原に居住していた北村氏のなかに北村宗龍(1552～1643 年)がいた。彼こそ後世に「近江の医聖」と称されたその人である。※宗龍が家康に薬を処方したのではありません。



伝・永原御殿の表門(浄専寺内)

【参考文献】

- ・ルイス・フロイス(松田毅一、川崎桃太郎訳)『完訳フロイス日本史 1 織田信長編 1』中公文庫、2000 年
- ・大谷雅彦編著『北村宗龍 埋もれていた近江の医聖』1986 年